

(有) 赤雁の里 (島根県益田市)
～地域資源を活かした食農教育と交流による地域振興～



表彰理由

地域住民の有志で開始された「赤雁の里」の取り組みが、教育的効果や社会的効果を生むにつれ、地域住民全体の協力体制を築き、景観形成や農業生産など地域住民が支える事業として成長している。また、交流事業への参加者や農家レストランの利用者の増加、新たな地域特産品の開発が進むに伴い、地域資源が再評価されてきた。この結果、認定農業者への農地の集約や委託も進んだほか、農業サポーターによる新たな農業生産が始まるなど、遊休農地の解消など農業生産振興にもつながった。これらの活動は過疎化・高齢化が進展する山間過疎の小さな集落でありながら、限られた人材や地域資源を活用した元気な地域振興活動のモデルとなるところが評価される。

取組内容

1. 小中学生向け交流事業「ふれあい楽校・赤雁の里」の実施

○夏休み期間中に2泊3日の小中学校「サマー学校」を受け入れる活動が定着。そばの播種などの農作業やウナギ捕りの他、食事の準備から片付けまでを子ども達に行わせ、農家の精神なども伝える一連の食農教育プログラムとなっている。

2. 農家レストラン「赤雁の里」(予約制)の運営

○赤雁地区の女性達の活動の場として、当地の昔ながらの食べ物や調理法を地元のお年寄りに聞き取りながら再現し、飲食提供するメニューをつくりあげた。また、お客様の声を参考にしながら赤雁の小豆や餅米による「桜餅」「柏餅」「切餅」などの特産品も開発し、市内の直売所やスーパーで販売する地産地消商品となっている。

3. 食農教育「農村歳時記」の取り組み

○田植え、田んぼの生き物調査、稲刈りまで年4回の交流イベントを毎年実施している。益田市内の小学校を通じて参加者募集を行い、保護者も含め毎年100名近くが参加する。活動6年目を迎え参加者も定着してきたとともに、幼稚園などの未就学児の希望も増加している。

4. 赤雁の里としての年間行事の確立

○春の桜まつりにはじまり、農村歳時記のイベント、秋の収穫祭、年始のキャンドルナイトなど、年間を通じて行事を開催し、平成13年からの延べ来訪者は2万4千人にのぼっている。

5. 地域の農業生産振興

○レストランや加工品の原材料として、サツマイモや小豆などの作付けが拡大したとともに、新たな農業サポーターの参加を得て、「赤そば」や「柚子」の生産に向けた活動が開始されている。

<最近の取組について>

○「農村歳時記」の開催

平成17年からJAいわみと一緒にしている「農村歳時記」(田植え、田んぼと川の生き物調査、稲刈り、収穫感謝祭の年4回の体験・交流活動)は、多数の親子で賑わう赤雁の里の中心的事業です。米作りの一端を体験し、土に触れ、地域の住人とふれあい、山里のおいしい空気を体いっぱい吸って、すっかり自然児となります。

3年前から田植え体験前のドロンコスポーツに市内の若者グループが特別参加し、本年は140人もの若者達が集い、そのパフォーマンスに子供達もびっくり、田んぼは笑いと歓声に包まれます。スポーツと労働の後は、地元の米と野菜の昼食。むすび、煮しめ、酢の物、味噌汁、かしわ餅、笑顔いっぱいのその食べっぷりに量は不足しないかハラハラして、その食欲を見守ります。

この「農村歳時記」から、食べ物のこと、それを作る人達のこと、作物を作る環境のこと、赤雁の里に集う人々が何かを学び感じてくれる事を期待しています。



農村歳時記 集合写真



農村歳時記 田植え

○「JA女性部郷土料理体験」

JA女性部若妻会員を対象に地元産の米、豆、野菜を使った昔ながらの料理と、餡餅、かしわ餅、さくら餅作りの体験を行いました(平成23年12月~平成24年、計3回)。餅類は、以前は家庭で作られていたものですが、最近はその機会がなく、小豆を煮て餡を作る方法、餡の包み方などを体験。また、食べられる山野草を摘んでおひたしやてんぷらにする等、地産地消の料理を体験しました。



郷土料理体験

代表者: 代表 渡邊 哲朗
所在地: 島根県益田市赤雁町
活動開始年月日: 平成13年2月